

市民の皆さんへ

今年も広報特別号を皆様のお手元に届ける季節となりました。今年には新型コロナウイルスが全国的に拡大し、本市の市民生活や経済活動に様々な影響が出ていることから、その影響を縮小化する本市独自の支援策等について、新しい対策を決定し、それも含めてお知らせするため例年よりひと月遅れて発行することにしました。

新型コロナウイルスの感染が全国的に拡大した時期には、感染の不安と隣合わせの生活が続きました。また一方で感染拡大を防止するための緊急事態宣言の下で、いろいろな業種に対して休業要請がなされたことなどにより、地方も経済活動が停滞する結果となりました。

本市においても、学校の休業、公共施設の休館、イベントの中止など公的なもののほか、営業の休止・縮小、雇用不安、資金繰り、生活の不安定さ等々、恐らく荒尾市の歴史の中でもかつて経験したことのない状況が訪れました。もちろんそれらを改善するために、国、県、そして市でもさまざまな対策を講じ、全力で支える努力を行っています。

これからは、新型コロナウイルスと共に生きる「ウィズコロナ」の時代と言われています。「新しい生活様式」の下でコロナと共に生きていく生活のスタートです。そしてウィズコロナの時が去り、新しい時代が変わる時まで、私も「新しい生活様式」を市民の皆さんと共有し、市民生活の安定や地域経済の維持発展などに必要な対策を講じることに全力を注いでいきます。

現在行っている本市の支援策等については次ページ以降に紹介していますので、是非参考にしてください。

私は6月のある日、梅雨の晴れ間を利用して大島にある「おもやい市民花壇」＝バラ園を訪れました。コロナ禍でしばらく休園したバラ園ですが、その日も元気な姿を見せてくれました。よく手入れされたバラを見て、私は自然の強さと共に人の強さもひしひしと感じました。

そして市民の皆さんが新型コロナウイルスを乗り越えられるよう最大限の努力をすると決意を新たにしました。

市民の皆さんと、コロナの時代を乗り越え、コロナ後の新しい荒尾市と一緒に創っていきましょう。

荒尾市長 浅田敏彦

新しい時代へ コロナ禍を越えて

新しい生活様式で感染防止を

国の専門家会議から「①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い」を感染防止の3つの基本とした「新しい生活様式」が示されています。これまでに示された「手洗い、咳エチケット等の感染対策」、「3つの密」の回避などと併せて、できることから取り組んで感染を予防しましょう。

市の感染防止対策の一部

学校

- ・手洗い用水栓をセンサー式に改修
- ・ソープディスペンサーを設置
- ・教室に空気清浄機を設置 など

公共施設

- ・カウンターなどにパーテーションを設置
- ・空気清浄器や空気循環用扇風機を設置
- ・市立図書館に図書消毒機を導入 など

このほか、高齢者福祉・介護施設、保育所等へのマスクや消毒液の配布や、避難所で症状がある人を隔離するための多目的テントやパーソナルテントの配備など、さまざまな対策を講じました。



新型コロナウイルス

感染症に伴う主な支援

地域経済の活性化対策

プレミアム付商品券8月7日から発売

5,000円で6,000円分使える、プレミアム率20%の商品券。医療機関などでも使える全登録店共通の「荒尾地域振興券ライブ」と、飲食店やタクシー、観光施設などで使える「荒尾地域振興券My Local」の2種類があります。

問 荒尾商工会議所 ☎62-1211



あらおに“Goばい!”キャンペーン

市内4か所の宿泊施設の宿泊チケット3,000円分を500円で購入でき、5倍お得なキャンペーンを実施中。宿泊チケットは専用サイトで購入でき、9月30日(水)まで利用できます。

問 産業振興課 ☎63-1421



個人・団体向けの支援策

ひとり親世帯への臨時特別給付金

児童扶養手当受給世帯等に対し、対象児童1人あたり5万円(第2子以降は3万円)を支給。収入減の場合は更に5万円を支給します。対象となる世帯には、7月に市からお知らせの文書を郵送しています。

問 子育て支援課 ☎63-1417

新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金

休業期間中の休業手当を受けられない中小企業の従業員(パート・アルバイト含む)に、休業前賃金の8割(日額上限11,000円)を支給します。

問 厚生労働省コールセンター ☎0120-221-276

生活福祉資金貸付

新型コロナウイルスの影響を受け、収入の減少で生計の維持が困難となった場合に、無利子で貸付を行います。保証人不要で、当初1年間は返済不要です。

<緊急小口資金>	<総合支援資金(生活支援費)>
緊急かつ一時的に困難となった場合に、少額の費用を貸付。 ・貸付上限：20万円 ・返済期間：2年以内	生活再建までの間、必要な生活費用を貸付。 ・貸付上限：月20万円(2人以上)、月15万円(単身) ・貸付期間：原則3か月以内 ・返済期間：10年以内

問 荒尾市社会福祉協議会 ☎66-2993

生活困窮大学生等のための給付金

県内および県外に進学した大学生等のうち、生計維持者(大学生等の学費や生活費を負担している者)の住民税が非課税である学生を対象に、1人あたり5万円を給付します。

問 熊本県生活困窮大学生等給付金相談窓口 ☎096-333-2738

CHECK

生活や仕事に困っている人は、「荒尾市生活相談支援センター」にお気軽にご相談ください。専門の支援員と一緒に解決策を探します。

問 生活相談支援センター ☎57-7019 (9時~16時)

就学援助

小中学生の学用品費などを支給する就学援助。前年の収入による審査と、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により急激な家計状況の変化があった家庭も審査対象になりました。支給対象となる費目は、学年などにより変わります。

問 教育振興課 ☎63-1659

CHECK 特別定額給付金 申請期限8月19日(水)

1人10万円を支給する特別定額給付金は、5月に世帯主あてに申請書を郵送しています。申請期限が近づいていますので、申請書が届いていない、申請方法がわからないなどという場合はお問い合わせください。

問 特別定額給付金担当窓口 ☎57-7162

住居確保給付金

原則3か月(最大9か月)を限度に家賃相当額を支援します。離職・廃業後2年以内の人が対象となっていました。休業等により生活保護基準程度まで収入が減少した人も対象となりました。給付額は世帯人数により上限額があり、収入に応じて、市から貸主へ直接支払います。

問 生活相談支援センター ☎57-7019

子ども食堂活動緊急支援補助金

子どもたちが安全・安心に子ども食堂を利用できるように、新型コロナウイルス感染予防に必要となる衛生対策等の経費を補助します。補助額は年間の開催回数に応じ、10万円~30万円が上限となります。

問 熊本県子ども家庭福祉課 ☎096-333-2229

荒尾市新型コロナウイルス感染症に係る市民活動サポート事業助成金

新型コロナウイルス感染症対策に起因するさまざまな課題の解決に資する活動(生活支援、教育支援、交流活動など)に取り組む団体に、上限10万円を助成します。

※ほかの助成金との重複はできません。

問 楽しいいきいき課 ☎57-7163

事業者向けの支援策

国の持続化給付金

ひと月の売上が、前年の同月比50%以上減少した事業者へ給付。給付額：法人200万円(最大)、個人事業者100万円(最大)

問 持続化給付金事業コールセンター ☎0120-115-570

熊本県事業継続支援金

ひと月の売上が、前年の同月比30%以上50%未満減少した事業者へ給付。給付額：法人20万円(最大)、個人事業者10万円(最大)

※国の持続化給付金との重複はできません。

問 熊本県商工政策課 ☎096-333-2828

荒尾がんばる事業者応援給付金

ひと月の売上が、前年の同月比20%以上50%未満減少した事業者へ給付。給付額：法人20万円、個人事業者10万円

※国の持続化給付金との重複はできません。

問 産業振興課 ☎63-1432

新型コロナウイルス感染症対策制度融資利子補給

売上が減少した事業者が、県の融資制度である金融円滑化特別資金を利用する場合、その利子を市が3年間補給します。

問 産業振興課 ☎63-1432

農林漁業者向け金融支援

経営に影響を受けた農林漁業者が県の融資制度を利用する場合に、その保証料と5年間の利子を、市・国・金融機関が補給します。

問 農林水産課 ☎63-1443

家賃支援給付金

5月~12月において次のいずれかに該当し、家賃の支払いが苦しい事業者へ給付。

- ①いずれか1か月の売上が前年同月比で50%以上減少
- ②連続する3か月の売上が前年同期比で30%以上減少

給付額：法人600万円(最大)、個人事業者300万円(最大)

問 家賃支援給付金コールセンター ☎0120-653-930



雇用調整助成金 拡充

休業手当に要した費用を助成。1人あたり日額8,330円となっていた上限額が、日額15,000円に引き上げられ、助成率も拡充されました。すでに受給した方や申請済みの方も、令和2年4月1日に遡って適用されます。

問 厚生労働省熊本労働局職業対策課分室 ☎096-312-0086

CHECK

雇用調整助成金等の申請書作成を、社会保険労務士が無料でサポートする事業を、荒尾商工会議所で実施しています。事前予約が必要です。

問 荒尾商工会議所 ☎62-1211

小学校等の臨時休業に伴う支援

小学校等が臨時休業した場合だけでなく、自治体や放課後児童クラブ、保育所等から可能な範囲で利用を控えるよう依頼があった場合も対象となります。

<小学校休業等対応助成金>

小学校等に通うこの保護者である労働者に、有給の休暇(年次有給休暇を除く。)を取得させた企業に対する助成金。2020年2月27日~9月30日までの間に取得した休暇について、3月31日までに取得した休暇は1日あたり8,330円を上限に、4月1日以降は1日あたり15,000円を上限に給付します。

<小学校休業等対応支援金>

委託を受けて個人で仕事をしている方が、子どもの世のためために契約した仕事ができなくなった場合の支援金。2020年2月27日~9月30日までの間の就業できなかった日について、3月31日までは1日あたり4,100円、4月1日以降は1日あたり7,500円を支給します。

問 厚生労働省学校等休業助成金・支援金コールセンター ☎0120-60-3999

小規模事業者持続化補助金 拡充

影響を乗り越えるための販路開拓等に取り組む費用について、最大3/4補助(上限100万円)。さらに、業種ごとのガイドラインに基づいた感染拡大防止の取り組みを行う場合は、上限50万円の補助を上乗せ。加えて、クラスター対策が特に必要と考えられる業種(屋内運動施設、カラオケなど)については、さらに上限を50万円上乗せし、最大200万円の補助が可能です。

問 荒尾商工会議所 ☎62-1211

これらの他にもさまざまな支援策があります。また、現在も状況を注視しながら、必要な対策の検討を進めています。情報は随時、市ホームページや毎月の広報あらおなどでお知らせしていますので、ご活用ください。

コロナ関連情報(市HP)



7つのチャレンジ

新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活にもさまざまな影響を及ぼしましたが、この変化を上手に日常に取り入れながら、ウィズコロナ、アフターコロナと言われている新しい時代がより豊かなものとなるために、荒尾市は「7つのチャレンジ」を更に加速させていきます。

移動らくらく都市

スマートシティ

教育先進都市

新エネルギー都市

市民協働で持続可能な地域づくり

超高齢社会先進都市

市役所イノベーション

その1

超高齢社会先進都市

2023年度に
開院

新・荒尾市民病院

県北の命と暮らしを守る拠点であり続けるために

2019年度は新病院の基本的な形である基本設計(平面計画・立面計画・断面計画・造成計画等)をまとめました。総事業費は工事費・医療機器等整備費を含め約147億円を見込んでいます。2020年度は7月に施工予定者を決定し、年度内に実施設計を取りまとめ、2021年度は工事着工を予定しています。

新病院のこだわりポイント

全個室型の一般病棟

新型コロナウイルスなどの感染症対策に効果を発揮し、プライバシーにも配慮した全個室型一般病棟を整備します。

わかりやすく利用しやすい外来

全ての診療をワンフロアで行えるようにします。また、複数の診療科をまとめたブロックごとに受付を配置します。

救急・災害に迅速に対応

免震構造を採用し、災害に強い病院をつくりたい。また、救急医療体制を充実させるため、屋上ヘリポートと救急関連部門・高度医療部門を直結する専用エレベーターを整備します。

玄関前にバス停を設置

十分な駐車スペースを確保するとともに、正面玄関前にはバス停をつくり路線バスを乗り入れます。

予定している医療機能の充実

- 1 災害時の医療救護活動の中心的な役割を担う災害拠点病院に指定
- 2 重症患者の治療を地域内で行える地域救命救急センターの指定
- 3 困ったときに相談できる患者サポートセンターの充実
- 4 診療科も充実！歯科口腔外科を開設
- 5 ロボット手術に対応した手術室を整備し、高度医療を推進

2020年2月に
指定されました！



安心して暮らせる健康長寿のまちへ

県内初！
「成年後見制度の中核機関」を開設



認知症や障がいにより判断能力が不十分な人の権利を守るための成年後見制度。この制度を必要とする人が適切に利用できるような支援する「成年後見制度の中核機関」となる「荒尾市権利擁護推進センター」を2020年4月に設置。誰もが安心して暮らせる社会の実現を推進します。

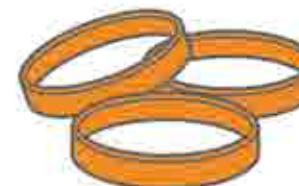
健康寿命を延ばす「フレイル予防」でいつでも元気に！

加齢による心身の衰えにより要介護状態の一手手前に陥ることを「フレイル」といいます。フレイルは「からだ(身体的要素)」、「こころ(精神的要素)」、「お付き合い(社会的要素)」の三要素が相互に影響しあっています。2020年度から、このフレイル予防を重点的に行う介護予防教室を新たに実施。運動機能を向上させるトレーニングのほか、口腔や栄養に関する講座も行います。

心強い味方！認知症サポーターも続々養成中

認知症の人に住み慣れた地域で安心して暮らしてもらうためには、地域住民の皆さんに認知症を正しく理解してもらうことが何より大切です。そこで、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、認知症の人や家族を支える認知症サポーターを養成する講座を地域の集まりや小中学校、高等学校、企業向けに行っています。

認知症サポーターが身に付ける
オレンジリング



認知症サポーター
累計10,957人



潮湯をさらにくつろげる場所に

60歳以上の人利用することができる、海水を利用した荒尾市の温浴施設「潮湯」。今年度、その敷地内にユニットハウスによる「憩いの場」を造ります。憩いの場では社会福祉協議会によるサロンや介護予防体操教室のほか、健康に関するセミナーや講座なども行う予定としており、皆さんの健康な毎日をバックアップします。



中学生からがん予防を

市内の中学校に通う3年生の希望者を対象に、がん教育の一環として実施したピロリ菌検査。ピロリ菌は胃がんのリスク要因となるといわれているので、学校の健診にあわせて行ったところ8割以上の生徒が検査を受けました。費用は市が助成し、早期発見と子どものうちからの予防医療への意識付けの啓発を行うものです。



国保のヘルスアップ健診で生活習慣病を予防

国民健康保険の特定健診の結果に基づいて、必要と思われる人には頸動脈エコーなどの二次検査を実施。いつまでも健康でいきいきと過ごせるように、糖尿病をはじめとする生活習慣病の発症と、その合併症である心血管疾患の重症化の予防を図ります。



荒尾梨

産地の特産品である梨。赤は梨の白い皮が剥き取り、秋には市内各地に美味しい梨の産出ができて、さまざまな美味しさを堪能できます。

その2 教育先進都市

「わかる」「できる」教育を推進!

ICTで楽しく勉強



電子黒板や各教室でインターネットを利用するための環境整備を行い、ICTを利用したよりわかりやすい授業を実践しています。2020年度はデジタル教科書や1人1台のタブレット端末を整備し、子どもたちが楽しく学べる環境をさらに整えるとともに、情報を活用できる能力と創造性を育む学習を目指します。



不登校の子どもが安心して過ごせる場所を設置

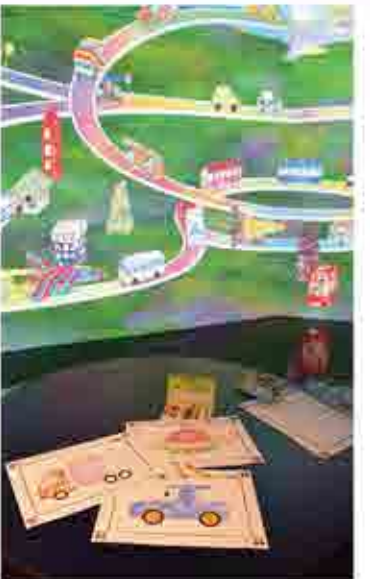
心の悩みや不安を抱えている子ども一人ひとりが、安心して学校で過ごせるよう、荒尾第三中学校を生徒支援研究指定校として、心の居場所づくりを進めています。2020年4月に、子ども一人ひとりが安心して学習や生活ができる教室「ハートフルルーム」を校内に設置しました。専任の指導員2名を配置し、学習指導や心の相談を通して、生き生きとした生活の実現に向けての積極的な支援を行っています。

子ども科学館を今注目のデジタルアートで楽しく遊ぶ空間にリニューアル!

2019年11月1日、文化センターに併設する子ども科学館が「あらおキッズドーム」という新たな愛称とともに生まれ変わりました。アート集団として国内外で活躍するチームラボの体験型デジタルアート作品「チームラボ 学ぶ!未来の遊園地」を新たに導入。この作品は、他の人と共同で創造していく体験を学ぶ教育的プロジェクトで、人気の3作品を常設展示しています。



2019年度
入館者数
3,232人



学べる!遊べる!荒尾干潟水鳥・湿地センター

荒尾干潟における活動の拠点となる荒尾干潟水鳥・湿地センターが2019年8月に開館しました。センターでは干潟の豊かな自然、美しい風景、干潟を守る取り組み、漁業などの営みについて詳しく知ることができるほか、自然観察会やワークショップなど、大人も子どもも楽しめるイベントを開催しています。



同館記念イベントには
約700人が登場

2019年度
入館者数
16,061人

TOPIC 荷台に乗って干潟の風を楽しもう

漁業者が荷物の運搬や沖合いまでの移動に使用している荷台付きの耕う機「テラー」。荒尾干潟では、このテラーの荷台に乗って干潟を走るという、全国でもめずらしい体験ができるんです。心地よい潮風や海の香りを感じながら沖合いに行き、干潟に住んでいるたくさんの生き物に触れてみませんか。



新しい学校給食センターの整備も着々と進行中

長洲町と共同で基本構想・基本計画を策定。新しい学校給食センターでは、現在課題としている、食物アレルギーや災害時の炊き出しに対応できる施設にします。2020年度に建物の具体的な設計を行い、2022年9月から給食を提供します。



荒尾干潟
さまざまな自然がもたらす豊かな自然環境が、多くの鳥類の生息地でもある。干潟の自然環境を、鳥類の生息地を守る。朝晩の夕日も絶景です。

子どもの医療費が中学生まで無償に

ケースによって一部負担が必要だった子ども医療費助成を、2021年1月診療分からは全額助成!子育て世帯の経済的負担の軽減を図ります。

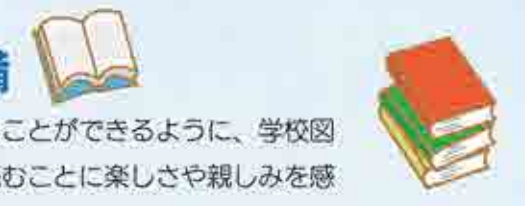


小学生は学校の給食費も無償!

子ども未来基金を活用!

子ども未来文庫を整備

子どもたちがより多くの図書に触れることができるように、学校図書館の蔵書の充実を図ります。本を読むことに楽しさや親しみを感じてもらおうと、読書の習慣づけと学力の向上を目指します。



英検チャレンジも引き続き実施



0~2歳児の保育所が完成

2019年11月に小規模保育事業所「桜山乳児保育園flora(フィオラ)」を開所。0~2歳児を対象とした定員19名の施設で、少人数で家庭的な雰囲気のもと、子どもたちがのびのびと過ごしています。



待機児童
12名(2019年10月)
↓
1名(2020年4月)

荒尾市でがんばる「わか者」を支援

奨学金を利用して大学などを卒業し、市内の中小企業に就職した30歳以下の市民を対象に、奨学金の返済を支援しています。年間の返済額の3分の2を3年間、最大60万円を補助。「わか者」の輝くスタートを荒尾市が応援します。



受給者
8名(2018年度)
↓
21名



あらお暮らしを選んでももらうために

要件に該当すればセットで受給可能! 若い世代の移住・定住を応援する3つの補助金

- ① 移住促進補助金**
 市外に住む人が荒尾市の住宅取得をきっかけに転入する場合などに補助金を交付。取得する住宅が新築か中古住宅かなどは問いません!多くの人に転入、定住してもらい、将来においても持続的な地域づくりを目指します。
1件あたり15万円
- ② 多世代定住支援事業補助金**
 親が市内に住んでいる子育て世帯が、親と同居または同一小学校区内に居住するために住宅を取得、改修する場合に補助金を交付。多世代が互いに支えあい、いつまでも安心して暮らし続けることができる環境づくりを支援します。
1件あたり15万円
- ③ 子育て応援空家活用補助金**
 子育て世帯が空家を改修して住む場合、その費用に対して補助金を交付。定住の促進とともに、空家の有効活用を図ります。
対象経費の2分の1 最大50万円

その3 市民協働で持続可能な地域づくり

いざというときのために 防災体制をさらに充実

① 行動を促す防災情報をいち早く市民の皆さんに!

野外スピーカーやスマートフォンアプリ、携帯電話、戸別受信機などを通じて防災情報を伝達するシステムの整備を進めています。2021年4月から運用開始します。



② 対応行動の手助けとなる「防災ブック」を各家庭に!

ハザードマップと合わせて、災害に備えた準備や行動する際の手助けとなるような情報を掲載した「防災ブック」を作成し、秋ごろに全世帯に配付します。



③ 地域防災力の更なる向上を目指して!

昨年度の22の自主防災組織に続き、2020年度は各地区協議会から推薦を受けた2組織ずつ、合計24組織での地区防災計画の策定を目指して支援します。



④ 避難所の感染症対策を万全に!

災害時の避難所における新型コロナウイルスの感染を防止するため、多くの避難所を開設し避難者の分散化を図ります。また、感染症対策に必要な物資や資材等を準備しています。



「地区防災計画」ができるまで

地域でしっかりと話し合って、地区防災計画を作成。定期的に見直しも行います。

- ① 資料や地図、まち歩きなどで自分のまちを「知る」
「丘の上に住宅が多いよね」「住宅地への道路が1本しかないんだよね」
- ② 資料や地域の人の話から過去の災害を「学ぶ」
「住宅地は急傾斜地だから土砂災害が心配」「避難所までの道も大丈夫かな?」
- ③ 自分の地域に必要な防災対策を「考える」
「自主的に避難する場所は公民館が近くていいね」「でも狭いから、大規模災害の時は市の指定避難所に行くようにしましょう」

VOICE

私は2年ほど前に防災に関する講演を聞いて心を打たれたことなどをきっかけに、防災士の資格を取得しています。各地域の特性を踏まえて、多くの地域住民の命を守るための本当に良い地区防災計画ができました。地域の皆さんの防災意識も高まったと思います。
(深瀬ヶ丘地区長・香月 正文さん)

力をあわせて魅力ある地域づくりを推進

昨年7月から地区担当職員制度を開始し、各地区の地区協議会に市の職員を派遣しています。2019年度は各地区の役員会や地区別ワークショップに出席し、地域の魅力や課題の再確認をしました。今後は集めたデータをわかりやすく整理し、各地区で具体的に何に取り組んでいくべきかを一緒に考えていきます。



地域住民で考えた「地区別計画」

地域住民同士、地域と行政などで課題を共有し、役割分担のもと対策を検討して、解決を目指すために、地域の目指す姿や取り組みの方向性を各地区で地区別計画にまとめました。

あなたの地区をどんなまちにしたいですか?

荒尾地区 「住みやすく」「交流が活発」なまち	万田地区 荒尾駅を中心にした活気あるまち	桜山地区 「住む」のに魅力あるまち
万田中央地区 世代間のコミュニケーションがとれた「明るい」「元気」なまち	中央地区 若い世代も活躍できる楽しく暮らしやすいまち	
平井地区 景観がいい、住みたくなるまち	緑ヶ丘地区 人と人がつながり、見守り、きれいで安心のまち	
府本地区 「住む人」も「来る人」も魅力を感じるまち	有明地区 みんなが「集う」、「住みたくなる」まち	八幡地区 伝統に思づく、心安らぐ「絆」のまちづくり
井手川地区 「美しく魅力ある」まち(荒尾の「ビバリーヒルズ」を目指して)	清里地区 若い人が帰ってくる、高齢者と支えあう、「やさしい」「元気な」まち	

目指す未来へ向けて、すでに各地域でさまざまな取り組みが進められています。

VOICE

万田中央地区では、まちづくりの拠点としてコンテナハウスをつくりました。集会やイベントなどに利用するなど、地域の人々が気軽に集まる場になっています。また今年には地区協議会内の部会として、小中学生を中心とした「万なかの会」を正式に立ち上げ、世代間のつながりをさらに深めていく予定です。
(万田中央地区協議会会長・田中 一大さん)

VOICE

八幡地区では、毎年行っていたウォーキング大会を、昨年「防災ウォーキング大会」にしました。地域の危険箇所を確認しながら歩くというもので、ゴールでは防災クイズ大会も実施。参加者も増加しました。毎年コースを変えて、皆で危険箇所の状態を把握していきたいと思っています。
(八幡地区協議会会長・前川 哲也さん)

その4 市役所イノベーション

ICTなどを活用した業務の効率化と、人による温かい行政サービスが調和する市役所へ

AI-OCRで入力作業を効率化

OCRとは手書きの書類などの読み取りを行い、データ化する技術のこと。これに文字認識率を向上させるとともに、さまざまな様式の書類で使えるように人工知能(AI)技術を加えたものがAI-OCRです。これまで職員が手作業でシステムへの入力を行っていた申請書なども、AI-OCRが行った作業の結果を職員が確認するだけになります。



RPAと連携できる封入封かんプリンター

意識と行動の改革

市民の皆さんとしっかりと向き合い、スピード感を持った行動で、行政サービスを向上させます。



WEB会議

ロボットが職員の業務をサポート

RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)と呼ばれるソフトウェア型ロボットを導入し、複数の業務で職員の作業時間を大幅に削減しています。業務によってはRPAに文書の封入封かんを自動で行うプリンターを組み合わせ、これは荒尾市が全国初! 特別定額給付金の申請書発送業務でも大活躍しました。

宮崎兄弟の生家・資料館



独立の平安革命への足跡や自由民権運動などに貢献した宮崎兄弟の生家です。生家を訪れた日中友好のシンボルでもあります。

その5

移動らくらく都市

市内どこへでも手軽に移動

どなたでも、市内どこへでも移動が便利に

これまで2度にわたり実証実験を行い、大変好評だったAIによるオンデマンド型の「あらお相乗りタクシー(仮称)」。2020年10月から荒尾の新たな公共交通機関として市内全域に導入できるよう準備中です。路線バスや、平井・府本地区の乗合タクシーなど併せて活用すると、公共交通がもっと便利に!



さまざまな交通手段をかきこく使おう!

あなたに合った使い方をご提案! モビリティマネジメント事業

「モビリティマネジメント」とは、公共交通を上手に活用するための取り組みです。荒尾市では、市民一人ひとりとコミュニケーションを図りながら進めています。例えば、市内各地で行われている体操教室を訪問。自宅近くのバス停や目的地までの路線、所要時間などそれぞれの参加者にあわせて作成した「行動プラン提案票」、バスの時刻表、無料お試し乗車券などを説明しながら手渡しました。これをきっかけに参加者同士と一緒にバスを利用されることもあるそうで、バスを利用することが自分たちの身近な移動手段を守るということになるという意識も生まれたようです。

CHECK

路線バスの利用は
70歳以上は市内100円

※市役所か市民サービスセンターで
乗車証の手続きが必要です。

その6

新エネルギー都市

石炭のまちから 新しいエネルギーのまちへ

世界的な問題である地球温暖化への取り組みのキーワードとして「脱炭素化」という言葉があり、熊本県も県内における二酸化炭素の排出量を2050年までに実質ゼロにする宣言を行っています。荒尾市も持続可能な未来を実現するため、環境にやさしい再生可能エネルギーを活用したまちづくりを目指しています。

環境にやさしい 再生可能エネルギーの活用

荒尾市では太陽光や、間伐材などを原料とする木質バイオマスで、市内一般家庭の年間消費量の1.6倍にあたる電力を発電しています。こうした環境にやさしい再生可能エネルギーを電源として使用することで、脱炭素なまちづくりを推進しています。



市役所にも太陽光発電設備と蓄電池を設置。停電時も災害対策本部に電気を供給できます。

荒尾でつくったエネルギーを荒尾で循環

荒尾市、三井物産株式会社、株式会社グローバルエンジニアリングの連携協定に基づき設立された「有明エナジー株式会社」は、荒尾市に本社を置き、電力供給(小売)事業を行っています。環境にやさしい電力の地産地消の推進と、電気料金が市内で循環することによる経済の活性化を図るものです。また、有明エナジー株式会社の収益の一部は、市の活性化につながる取り組みにも使われています。



その7

あらおスマートシティ

荒尾競馬場跡地で超先進技術を実験! 荒尾市を最先端のスマートシティへ

スマートシティとは、AI(人工知能)、ICT(情報通信技術)、IoT(モノのインターネット)などの先進的技術を用いて課題を解決し、より快適な生活を提供する次世代都市のことです。

2019年度、荒尾市は国土交通省が進める「スマートシティモデル事業」に民間事業者とともに応募し、重点事業化促進プロジェクトに選ばれました。荒尾市を含め全国で23か所、九州では3か所が重点事業化促進プロジェクトに選ばれており、昨年8月には、共同提案者の

民間事業者、学術研究機関の皆さんと「あらおスマートシティ推進協議会」を設立しました。国の支援を受けながら、民間事業者や学術研究機関とともに、先進的技術を活用した快適で便利なまちづくりを進めます。まずは、競馬場跡地の南新地地区を実証実験の場として、荒尾市全域に広げて快適なまちにするチャレンジです。2020年度はスマートシティの実行計画を策定します。



例えば
こんなことが
できるまちに!



① 普通に生活しているだけで 健康状態をチェック

センサーなどを使用してさまざまな情報を計測したり数値化する「センシング技術」を活用して、鏡の前に立つだけで健康状態がわかる「魔法の鏡」などにより、日常生活の中でいつでも、どこにいても、自分や家族の健康状態がわかるようになります。健康状態に合った食事や運動を行うことができ、より健康で安心な生活が送れます。

② 停電しないまちと快適な移動

環境にやさしい太陽光発電による電気を蓄電池にためて、皆で融通しあうことで、停電したときでも普段どおりの生活を送ることができるようになります。また、新たな移動手段として、AIを活用した相乗りタクシーや、シェアリング型の電動キックボード、運転手がない自動運転循環バスなどにより、あらゆる人が行きたい場所に快適に移動できるようになります。

③ 個人情報をより安全に管理、活用

現在は、大手事業者が一括管理している個人情報を、個人が管理する分散型の仕組み「パーソナルデータエコシステム」を導入することで情報漏えいの危険性が低くなります。大切な個人情報をより安全に管理だけでなく、自分が開示したい範囲で個人情報を開示し、それらのデータを活用できるので、個人のニーズに合ったサービスなどを受けやすくなります。

NEWS

スマートシティの推進に NTTドコモも協力



2020年5月22日、荒尾市はスマートシティの実現に向けた新たなパートナーとして、NTTドコモと連携協定を締結。5G等の先進技術やICTサービスなどを活用して、教育環境の向上や安心安全なまちづくりなどに取り組み、快適さを実感いただけるまちを目指します。

強力なパートナー

あらおスマートシティ 推進協議会

荒尾市、JTB総合研究所、グローバルエンジニアリング、三井物産、有明エナジー、UR都市機構
アドバイザー会員 東京大学大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究センター、東北大学COI東北拠点
サポート会員 ITID



三池炭鉱 万田坑

わが国最大規模の炭鉱跡地で、日本の近代化に大きな役割を果たした。重工業、製糖業などの発展が促し、当時の賑わい、誇りが残っています。

2024年春に
まちづくり予定

もっと訪れたい、住みたいまちへ 有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお

1928年に開設され、有明海を一望できる夕陽の見える競馬場としても人気を博した荒尾競馬場。

2012年3月に競馬事業を終了した後、跡地の活用についてさまざまな検討を行い、2016年11月から土地区画整理事業を開始しました。JR荒尾駅から徒歩5分の立地条件を生かして、公益施設、公園・緑地、住宅地、生活利便施設、馬事文化娯楽施設の5エリアに分かれた土地利用の方針を掲げ、多様な世代が安心して過ごせる交流拠点や、多くの人が集まる観光・レジャーの発信拠点として整備していきます。

2019年7月には、競馬場跡地一帯が「荒尾ならではの」価値を生み出すまちとなるための指針として、「ウェルネス拠点基本構想」を策定しまし

た。まちづくりのコンセプトは「有明海の夕陽が照らすウェルネスタウンあらお」。地元の食材などを取りそろえる道の駅、学んだり遊んだりできる保健・福祉・子育て支援施設、遊具が充実した公園などを整備していきます。また、民間事業者の温浴施設、宿泊施設、運動施設、アウトドア施設などの誘致を進め、それぞれの施設が連携することで、更なる相乗効果を生み出せるようにします。2020年度から道路整備がはじまりますので、事業の進捗をより実感していただけたと思います。

また、交通アクセス向上に期待が寄せられている有明海沿岸道路は、競馬場跡地にインターチェンジが整備されるため、現在、地質調査などが行われているところです。

どんなまちになるの？

1

安全で健康に良い
地元の特別な食を
楽しむことができる

2

一日中飽きずに
遊んだり、
学ぶことができる

3

のんびり
リラックスできて
健康になれる

4

気持ちよく
運動し汗を流して
リフレッシュできる

5

自然の中で家族や
友人とアクティブに
遊ぶことができる

しあわせと元気があふれる「道の駅あらお(仮称)」

荒尾ならではのおいしい食べ物をはじめ、いろいろな体験やサービスを提供し、市民の皆様や市外から遊びに来た人、そこで働く人、関わる人など、誰もがワクワクできるような道の駅を誕生させる予定です。すでに基本構想を策定しており、2024年春のオープンを目指して、基本計画策定に着手しています。一日中楽しく、元気に過ごすことのできる新しい「荒尾の顔」にご期待ください！



荒尾梨



マジャク



オリーブ

荒尾市
ホームページ



荒尾市公式
Facebook



地域おこし協力隊
Facebook



広報あらお特別号2020
あらお「しあわせ」探し。
発行日 令和2年8月1日

編集・発行

荒尾市役所 総務部 総合政策課 広報広聴係
〒864-8686 熊本県荒尾市内出目390番地
☎ 0968-63-1157 FAX 0968-64-0940
✉ kouhou@city.arao.lg.jp